広島大学附属幼稚園（東広島園舎）

建築廃材をつかった誰もが使いやすい絵本の部屋の改装！

保育環境づくりのポイント

現在SDGs達成に向け，幼児期からのESDが重要とされている。これらは「環境」「社会・文化」「経済」の3領域を通じて子どもの生活や遊びを支える視点を含め，総合的な取り組みが必要とされる。昨年度幼稚園内の森の木を使って遊具や家具を作成した。今年度は園外の身近な建築廃材に目を向け，本園の『絵本の部屋』の環境整備と充実を図ることを目的に実践を行った。この環境づくりのポイントは①身近な建築廃材を使用することで，資源の循環性と３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）を知り，持続可能な社会の担い手となる子どもの育成を目指す。②年長児が仲間や専門家(解体業者・建築設計士・大工)，保護者とかかわりながら時間をかけて改装する体験を通して，愛着ある環境を目指す。併せて他学年が活動を見たり参加したりすることで，意欲や態度を受け継ぐ。これらの取り組みの中で，ＥＳＤの視点に立った保育を実践し，「5つの力」を育む。

～こどもたちのこの力を育みたい～

☑感じる・気付く力　☑うごく力　☑ 考える力
☑やりぬく力　☑人とかかわる力

取組み内容

9月

１．絵本の部屋の改装について担任から相談を受ける

①絵本の部屋について困っていることはある？
➡絵本がギューギューで取りにくい/借りたい絵本がどこにあるか分かりにくい/高い所の絵本が取れない/図書館みたいに10冊借りれるようにしたい/借りたい絵本がない時，図書館みたいに予約できるようにしたい
②どうやって改装する？
➡木が必要/道具が必要/材料が必要/一緒に作ってくれる人が必要/設計図が必要
援助：幼児と講師が連携できるよう，計画する。
※活動の過程を保護者へ配信する(9月～2月計10回)

設計図がいる！！

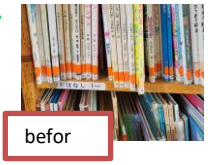
10月

２．身近な建築廃材の存在を知り，関心を深める

①家屋の解体作業を中継する。
➡解体業者の人に「この木はもう捨てる」と言われ「勿体ないから欲しい」「本棚や遊具が作れるから欲しい」と交渉する
②持ち帰った木に触れ，関心をもつ
➡長さ，模様などを観察し，想像を膨らませる
③何を作りたいかを考える
➡絵本棚/絵本を見る机と椅子/木のロボット
援助：実際に触れる中での気付きを共有する。
生木と建築廃材の違いなども共有する。

３．設計図を描き，構想する

①グループで設計図を描く
○年少・年中児クラスの子どもが転んでも痛くないように絨毯を敷く
○年少児が頭をぶつけないようなコーナーガードが必要
○絵本のサイズに合った棚が必要
○みんなで絵本を広げて見れる大きな机が欲しい
○本棚に手とカメラが付いていて，前に立つと心を読んで見たい本を取ってくれる棚
○絵本の種類を分かりやすいマークで分ける　など



befor

②建築設計士に設計図を見てもらい，アドバイスをもらう
➡・絵本を取りやすくするための仕掛けを教えてもらう
・実際に計って机やベンチの高さを決める

援助：可能なこと，不可能なことを整理して納得して取り組めるようにする。

12月～1月

４．絵本棚・机・ベンチを作る

①幼児が建築設計士，大工から知識を得ながら保護者や教師も共に協働する
➡職人の技を見る/インパクトドライバーなどの道具を使いながら制作する/目的に向かって協力する
援助：幼児自身が職人の技を見たり，疑問をもち思考したりする時間を保障する。

繰り返しの経験で手加減が分ったよ

金槌“トントン”は，
インドネシアでは，“ポックルポックル”って言うよ

建築設計士が書いてくれたマーク！
ⅠとⅠ，ⅡとⅡ，ⅢとⅢ，ⅡⅡとⅡⅡを合わせて組み立てるよ

2月～3月

５．関心をもち続ける

①年少・年中児クラスの友達に絵本の部屋の活動報告と使い方を伝える。
➡活動内容を伝える/種類ごとの見分け方/本の扱い方　など
②絵本の部屋改装報告会を計画・実施する（３月4日予定）
➡絵本の部屋改装に関わってくださった方，保護者，地域の方を招待して，活動を報告する。

after

援助：自分達の経験と絵本の部屋の使い方について年下の友達に分かりやすく伝える経験を支える。
また，この先もこの場をより良く活用できるようその都度考え続けられる機会をもつ。

＜今回の取組みを通して＞
当初教師は幼児が身近な建築廃材で絵本の部屋を改装する活動を通して３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）を知るという願をもっていた。しかし，幼児が構想した内容や描いた設計図には「誰もが安全に使いやすい絵本の部屋を作る」といった相手を思い活動しようとする表われがあった。このことは，幼児の日常の遊びや生活体験の中にSDGs達成に向かう芽，それにつながる「５つの力」の育ちがすでにあると言える。そこに加えて専門家や保護者に知識を得ながら協働したことで，３Rを学ぶだけでなく，その過程にかかわる人や時間，道具や機械，多文化を知る経験となり，クラスの全員で満足感や達成感を味わうことができた。

年長児クラス　そらぐみ担任　中川　順子　　仁井　貴士